

Infinity Vol.03

～大学と地域の協働力は無限大∞～

2020.3.23 発行

発行元
龍谷大学 社会学部
社会共生実習支援室

〒520-2194
滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
龍谷大学瀬田キャンパス内
社会共生実習支援室

TEL:077-544-7230

FAX:077-543-7615

E-mail:co-ex@ad.ryukoku.ac.jp



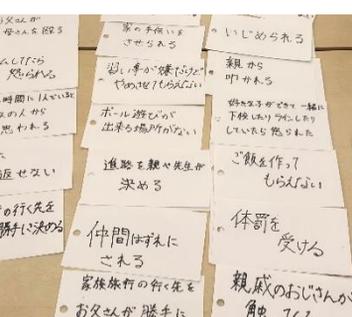
「The First Aid」修復中の熊本城現地視察にて

「子どもの権利」学ぼう中学生向けワークショップ

2019年12月12日(木)、「『子どもにやさしいまち』を作ろう」(担当教員:田村公江教授)の受講生のうち3名が同志社中学校の生徒8名を対象に「子どもの権利」についてのワークショップとレクチャーをおこないました。

ワークショップは、受講生が事前に用意した「子どもの権利が侵害されているような事例」が書かれたカードを、権利が「侵害されている」「侵害されていない」「どちらでもない・わからない」の3つに分類してもらうというもの。活動の進行役(ファシリテーター)をうまく務められるかが受講生にとっての課題でしたが、リハーサルの中で感覚を掴めたようで、「たしかに、このカードは迷うよね」などと声をかけながら共感的にファシリテートできました。

受講生は「自分たちが学んできたことを中学生に少しでも伝えられて良かった」と語ってくれました。



▲子どもの権利が侵害されているような事例カード



▲初めてのファシリテートは成功!

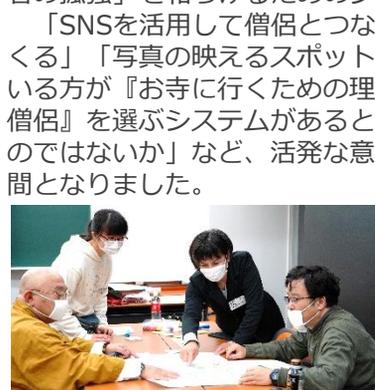
のサポート不足」の問題提起と解決・緩和策が発表され、「現場」に出て実践/探究することの「やりがい」や「楽しさ」、意味を見出してくれたことがうかがい知れました。次年度の活動がさらに活発になり、学生力と地域力が相互に高め合っていくことを目指したいと思います。



▲大津市中央地区・瀬田東学区からの参加者の皆さまと記念撮影!大変お世話になりました。

「若者の孤独に寄り添う」お寺の役割を再考

3月10日(火)、「お寺で地域づくりプロジェクト」(担当教員:古庄匡義講師)では、1年間の集大成として「若者の孤独にお寺はどう向きあうか」と題したワークショップをおこない、実習でお世話になったお寺の方々を中心に14名の参加者と受講生とが3つのグループに分かれて「若者の孤独」を和らげるためのプランを作成・発表しました。「SNSを活用して僧侶とつながることができる環境をつくる」「写真の映えるスポットをつくる等、孤独を感じている方が『お寺に行くための理由』をつくる」「『好きな僧侶』を選ぶシステムがあるとよりお寺に入りやすくなるのではないか」など、活発な意見に溢れ、大変有意義な時間となりました。



▲プラン作成の様子



▲コーディネーター 猪瀬優理准教授

2019年度「大津エンパワねっと」後期報告会を開催

1月19日(日)、「地域エンパワねっと」(担当教員:脇田健一教授、川中大輔講師)では、2019年度の後期報告会を開催し、受講生が1年間の成果を報告しました。

大津市中央地区で活動した学生からは「高齢独居男性の社会からの孤立」「キッズクラブの担い手不足」、大津市瀬田東学区で活動した学生からは「定住外国人の子どもへ

2019年度「社会共生実習」活動報告会

1月10日(金)、「社会共生実習」の全7プロジェクトが一堂に会して活動報告会を開催しました。当日は各実習の連携先の方々が多数お越し下さり、受講生たちの1年間の成長を感じていただくことができました。各プロジェクトからの報告内容を簡単にご紹介いたします。

地域エンパワねっと ふたつのテーマについて報告がなされました。ひとつは、大津市中央地区の高齢者を対象にした「シニア世代を地域とつなぐ～我はまちの子居酒屋クラブ～」です。この活動では、高齢者の引きこもりの予防と地域とのつながりづくりを目的に、参加者の皆さんと一緒に簡単な料理を作って食事をする集いを開催してきました。回を重ねるごとに参加者が増えてきており、今後の展開が楽しみです。

もうひとつは「定住外国人の子どもとその家族へのサポートと課題」です。これは、大津市瀬田東学区で発見した課題で、幼稚園で見落とされがちである定住外国人の子どもや保護者との共生についてどのように考えるべきか、他地域の実例などを学びながら提案したり、多文化交流企画を実施することを目指しています。

「子どもにやさしいまち」を作ろう 子どもの権利に関する基礎知識を学んだうえで、連携先にて実際に子どもたちと触れ合い、学びを深めていきました。また、奈良育英中学校・高等学校にて「子どもアンケート」と題したアンケートをおこない、抱える不安や自己肯定感などのデータから現代の若者たちの心情を学びました。

12月には同志社中学校にて受講生がファシリテーターとなり、子どもの権利をテーマにワークショップを実施しました。中学生からは、子どもの権利についてよくわかった、楽しく学べたという感想を得ることができました。本プロジェクトの受講生は、「大学卒業と同時に子どもを守る立場に立つことになるので、いい経験を積むことができました」と語ってくれました。

The First Aid 「『自助』『共助』『公助』の視点から消防防災の実態を学ぶ」と題して報告がなされました。「自助」とは自分で自分の身を守ること、「共助」とは家族や地域で助け合うこと、「公助」とは公的機関による援助のことを言います。この3つは災害が発生した際においてとても重要ですが、特に「自助」と「共助」が重要です。実際に、阪神・淡路大震災における救助の94.9%が「自助」「共助」によるものでした。

また、防災センターや消防局、西日本豪雨の被害にあった岡山県総社市下原地区などへ受講生が赴き、たくさんの知識を得たことや、野洲市の自治体合同訓練として、DIG 訓練に参加し身近な地域における住民同士の助け合いである共助の大切さを感じたり、本学の防災訓練の会議にオブザーバーとして参加するなど、学内外で大いに活躍してくれました。

雑創の森プレイスクールプレイワーカー 財団法人プレイスクール協会と連携し、チーフである福山直哉氏のもとで子どもとまよく遊ぶことができる大人になることを目的に遊びのテクニックを学びながら、プレイスクールの会員の子どものたちと実際に触れ合うことで実践もこなしてきました。

受講生らは遊び場の安全を守るための知識も学びつつ、現場で子どもたちのリーダーとして活動してきましたが、長期間子どもたちと関わることで、子どもたちとの距離が縮まり、子どもたちから頼られる存在になりました。

後期に入ると「遊び」の企画を任せられることも増えて、目指してきた「子どもとまよく遊ぶことができる大人」に相応しい姿へと成長したことが伺えました。

大学は社会共生に何ができるのか—文化財から“マネー”を創出する— 文化財の保護や活用方法などをフィールド調査や講話によって丁寧に学び、「国宝・重要文化財」保有ランキングにおいて全国4位である滋賀県の文化財からどのように“マネー”を生み出すべきかを模索してきました。その中で受講生らは「京都や大阪とは違った、大津ならではのゆったりとした空間を生かしながら、少数の観光客から多くのマネーを創出することが大津には必要である。大津に求められる観光客は量より質であると言える」という結論にたどり着きました。

来年度引き続き本プロジェクトを受講する学生は、「大津を知ってもらう入り口を広げるには」「大津の街と琵琶湖をどのように繋げるか」「量よりも質を向上させるには」「大津の観光資源となる文化財は何か」というテーマに注目しながら活動する予定です。

お寺で地域づくりプロジェクト 連携先の寺院がおこなっている地域貢献活動に参加し、仏教の伝道の工夫やお坊さんが現代人に伝えようとしていることは何かということ調査しました。

覚成寺では参加者全員が自分らしく過ごせる場、「たまにはお寺で心身脱落」が地域に提供され、一念寺では犬猫譲渡会「いぬとねこ」を通じて地域の方々に生命尊重の学びの場が提供され、法華寺ではお弟子さんのご自宅を解放して、「THE BONZE くらぶ」という仏教の魅力を飾らない心で参加者と語り合う場が提供されていました。

これらの連携先に共通する伝道とは、「仏教的な理念を背景にして開かれている場の提供」「地域の人々の持つ、現代のニーズにこたえること」「訪れた人に合った学びや気づきの提供」であったことが報告されました。

伏見の食材を活かした特産品づくりと地域連携 伏見ゆかりの食材を使い、食品流通業、行政など地域の人たちと協力しながら、新しい特産品開発を目指して活動しました。前期には連携先の農家などを訪問し、食材のヒントを得ました。それらを基に、地下水の豊かな土地であった伏水(現在の伏見)にちなんだ小籠包「伏水小籠包」、ペルーやメキシコなどの名物料理で魚介類のマリネであるセビッチェをアレンジした「ふしみせびつちえ」、伏見の深草に江戸時代から存在した軍の施設にちなんで「軍の食事=カレー」という発想と伏見桃山は花の栽培で知られた土地であることから、「エディブルフラワー(食用花)入りの福神漬け」、日本有数の酒処である伏見の酒粕を味噌と合わせ、レンコンを和えた「酒かすレンコン」を試作しました。

次年度には商品化もしくは伏見のレストランなどでメニューとして提供いただけるように営業活動にも力を入れる予定です。

Webサイト・SNS では最新の情報を随時更新中♪ ~2020年度の活動にもご期待ください!~



社会共生実習
Webサイト



社会共生実習
Twitter



社会共生実習
Instagram



社会共生実習
Facebook



エンパワ
Twitter



古荘プロジェクト+α
Facebook



古荘プロジェクト
Instagram



坂本プロジェクト+α
Facebook